

## 5. 教務関係諸制度

### (1) 2 年制専門課程

#### ①留学科を除く学科

##### A. 学科目

学科目の構成は以下の通りです。詳細は「カリキュラム概要 2 年制専門課程」(45 ページ以降) 参照。

- (A) 共通必修科目
- (B) 学科別指定専門科目
- (C) 選択科目

##### \* グローバルコミュニケーション科

- (A) 必修科目
- (B) 選択科目

##### \* 国際ホテル科デュアルシステム

- (A) 学科別指定専門科目

##### B. 学期・単位

- (A) 学期：2 学期＋冬季集中学期制

※国際ホテル科デュアルシステムは、冬季集中学期にホテル実習継続。

- (B) 単位：以下の基準によります。

1 単位は、45 分の授業を週 1 回、1 学期間受講し、合格した場合に与えられます。週に 1 回の科目では学期ごとに 2 単位の設定となっており、この場合、2 授業時間 (45 分×2) の授業を週 1 回、1 学期間受講します。

但し、冬季集中学期は、1・2 学期より短い期間で行われるため、2 単位の科目の場合、2 授業時間を週 2 回受講することになります。また、2 授業時間を 1 コマと呼びます。

##### C. 成績評価

成績評価：以下の基準によります。

評価	基準
A (秀) :	90～100 点
B (優) :	80～89 点
C (良) :	70～79 点
D (可) :	60～69 点

( ) 内は成績証明書の表示です。

##### D. 卒業所要単位数：126 単位。

詳細については、「各専攻科の特色」(27 ページ以降) 参照。

#### ②留学科 米国大学 3 年次編入コース (以下、3 編コース)、コミュニティカレッジコース (以下、CC コース)

##### A. 学科目

学科目の構成は以下の通りです。詳細は「カリキュラム概要 留学科」(102 ページ以降) 参照。

- (A) 留学準備科目
- (B) 大学単位認定科目
  - ① 共通科目 (3 編コース・CC コースともに履修する科目)
  - ② 3 編コース科目
  - ③ CC コース科目
- (C) 夏期特別講座科目

3 編コースは任意受講、CC コースは全員受講

##### B. 学期・単位

##### \* 3 編コース

- (A) 学期：5 学期／2 年制

(B) 単位：単位の配分は科目により異なります。詳細は「各専攻科の特色」(40 ページ) 参照。

##### \* CC コース (学院における修学期間)

- (A) 学期：3 学期

(B) 単位：単位の配分は科目により異なります。詳細は「各専攻科の特色」(41 ページ) 参照。

##### C. 成績評価

成績評価：以下の基準によります。

評価	基準
A (秀) :	90～100 点
B (優) :	80～89 点
C (良) :	70～79 点
D (可) :	60～69 点

( ) 内は成績証明書の表示です。

##### D. 卒業／修了所要単位数

\* 3 編コース：174 単位。

\* CC コース：115 単位。(学院 1 年次)

CC コースはグロスモントカレッジまたはミラコスタカレッジ 2 年次編入後、その規定に従って卒業に必要な単位を修得します。

### (2) 1 年制専門課程

#### ①専科

##### A. 学科目

学科目の構成は以下の通りです。詳細は「カリキュラム概要 1 年制専門課程 専科」(114 ページ以降) 参照。

- (A) 必修科目
- (B) 専門科目
- (C) 選択科目

##### B. 学期・単位

- (A) 学期：2 学期＋冬季集中学期制

- (B) 単位：以下の基準によります。

1 単位は、45 分の授業を週 1 回、1 学期間受講し、合格した場合に与えられます。大半の科目では学期ごとに 2 単位の設定となっており、この場合、2 授業時間 (45 分×2) の授業を週 1 回、1 学期間受講します。

但し、冬季集中学期は、1・2 学期より短い期間で行われるため、2 単位の科目の場合、2 授業時間を週 2 回受講することになります。

また、2 授業時間を 1 コマと呼びます。

##### C. 成績評価

成績評価：以下の基準によります。

評価	基準
A (秀) :	90～100 点
B (優) :	80～89 点
C (良) :	70～79 点
D (可) :	60～69 点

( ) 内は成績証明書の表示です。

##### D. 卒業所要単位数：78 単位。

詳細は、「各専攻科の特色」(42 ページ以降) 参照。

## ②英語基礎養成科

### A. 学科目

学科目の構成は以下の通りです。詳細は「カリキュラム概要 英語基礎養成科」(117ページ以降) 参照。

#### (A) 必修科目

### B. 学期・単位

#### (A) 学期：3学期制

#### (B) 単位：以下の基準によります。

1 単位は、45 分の授業を週 1 回、1 学期間受講し、合格した場合に与えられます。

この学科の科目では、4 単位・2 単位・1 単位の 3 つの種類があります。2 単位の場合、2 授業時間(45 分×2) の授業を週 1 回、1 学期間受講することになります。

但し、冬季集中学期は、1・2 学期より短い期間で行われるため、2 単位の科目の場合、2 授業時間を週 2 回受講することになります。

また、2 授業時間を 1 コマと呼びます。

### C. 成績評価

成績評価：以下の基準によります。

評価	基準
A (秀) :	90~100 点
B (優) :	80~89 点
C (良) :	70~79 点
D (可) :	60~69 点

( ) 内は成績証明書の表示です。

### D. 卒業所要単位数：78 単位。

詳細は、「各専攻科の特色」(43ページ) 参照。

## (3) 授業に関する規定

### ①学期・単位・授業時間

#### A. 学期

- 各学科(留学科除く)・専科(英語基礎養成科除く)  
1 年間で学期は 1 学期、2 学期、冬季集中学期に分かれます。※ 国際ホテル科デュアルシステムは、冬季集中学期にホテル実習継続
- 留学科/米国大学 3 編次編入コース  
2 年間で 1 年次の学期は 1 学期、2 学期、3 学期、また 2 年次渡航までの 8 ヶ月で学期は 4 学期、5 学期に分けられています。(5 学期編成)
- 留学科/コミュニティカレッジコース・英語基礎養成科  
1 年間で学期は 1 学期、2 学期、3 学期に分かれます。(留学科/コミュニティカレッジコースでは 2 年次にグロスモントカレッジまたはミラコスタカレッジに編入し、卒業のため必要な単位を 1 年以内に修得します。)

#### B. 単位

1 単位は、45 分の授業を週 1 回、1 学期間受講し、合格した場合に与えられます。

大半の科目では学期ごとに 2 単位の設定となっており、この場合、2 授業時間(45 分×2) の授業を週 1 回、1 学期間受講します。

但し、冬季集中学期は、1・2 学期より短い期間で行われるため、2 単位の科目の場合、2 授業時間

を週 2 回受講することになります。

また、2 授業時間を 1 コマと呼びます。

また、入学後に取得した検定・資格や、個人で参加した海外語学短期留学等を、申請により冬季集中学期の単位として認定する制度があります。申請時期は年 2 回で、掲示板等で案内します。それぞれ単位認定に伴う条件や基準が定められており、申請できるかどうかよく確かめて制度を活用してください。

### C. 授業時間

授業は通常 9:20~17:00 の間に 90 分の授業が 4 つあり、基本的に 1 週間は土曜日と日曜日を休みとする週休二日制となります。

1 時限目 9:20~10:55

2 時限目 11:05~12:40

昼休み 12:40~13:40

3 時限目 13:40~15:15

4 時限目 15:25~17:00

(注) 授業時間は途中 5 分間の休憩を含む。

国際ホテル科デュアルシステムは、2・3 時限のみ。それ以外の時間帯はホテル実習となります。

## ②成績評価と出席時間数

それぞれの科目が合格となるためには、各教科の成績で合格し、さらに出席時間数でも基準を満たしていなければなりません。

### A. 成績

出席時間数・授業態度・テスト・レポート等で判断されます。

評価	点数	成績証明書
合格—A	90~100 点	「秀」と表示
合格—B	80~89 点	「優」と表示
合格—C	70~79 点	「良」と表示
合格—D	60~69 点	「可」と表示
合格—P		「合」と表示
不合格—F	59 点以下	不合格科目名は表示しない

### B. 出席について

全ての授業に出席することが、授業効果の上で最も重要です。やむを得ぬ場合を除き、欠席しないよう最大限の努力をしてください。出席率は成績評価の上でも重要な部分を占めています。**授業への出席率が 75%に満たない履修科目がある場合、担当講師による成績評価の如何に関わらず、その科目の単位取得資格を失います。**

《注意 1》冬季集中学期の単位取得に関わる出欠条件については、後日別途案内します。(留学科・英語基礎養成科を除く)

授業開始後 15 分未満は遅刻、**15 分以降は欠席**となります。学期中 3 回の遅刻があると、1 回の欠席となります。ただし、遅刻入室は授業進行に重大な支障をもたらす場合があり、15 分以内であっても担当講師が入室を拒否し、欠席とすることがあります。